

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010334

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 【平成30年度】 舗装補修工事(路上路盤再生工) 曙5号線 L=400m、W=5.5m
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	A		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	道路ストック総点検事業		見直し年度			
事業期間	平成26年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	各施設点検項目数・舗装補修延長		関係例規・法令名			
事業目標	6項目・600m		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係個別計画名			
住民協働						

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	【平成26年度】 道路ストック総点検 舗装101.3km、照明108基、法面15箇所、 防雪柵506基、大型視線誘導標62基、 大型標識10基 【平成27年度】 ・舗装補修工法検討:3路線、法面点検:24箇所 【平成28年度】 舗装補修工事(路上路盤再生工) 曙5号線 L=200m、W=5.5m 【平成29年度】 舗装補修工事(路上路盤再生工) 曙5号線 L=400m、W=5.5m		・舗装 101.3km ・照明 128基 ・法面 1,200㎡ ・防雪柵 2,000m ・大型視線誘導標 121基 ・大型標識 10基	・舗装補修工法検討 3路線 ・法面 24箇所	・舗装補修工事(路上路盤再生工) 曙5号線 L=200m、W=5.5m	・舗装補修工事(路上路盤再生工) 曙5号線 L=400m、W=5.5m	
	事業費(千円)	65,900	0	32,500	3,400	10,000	20,000
	財源内訳	46,130		22,750	2,380	7,000	14,000
	地方債	9,000				3,000	6,000
実 績 事 業 費	事業費(千円)	34,290	0	31,158	3,132	0	0
	財源内訳	24,003		21,811	2,192		
	地方債	0					
	一般財源	10,287		9,347	940		
特定財源の名称 社会資本整備総合交付金 (補助率7/10) 地方債(過疎)100% 【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)		
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値		6項目	舗装補修工法検討3路線、法面24箇所	舗装補修延長200m	舗装補修延長400m	
第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	96%	92%	0%	0%	
	全体達成率	0%	47%	52%	52%	52%	
	備考欄						

事業名	道路ストック総点検事業	評価者	管理職 職氏名	建設水道課長	山崎佳之
		評価者	作成者 職氏名	建設水道課長補佐	田原慎也

様式1
平成27年度実施
平成28年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説) ① 舗装補修工法検討路線数/舗装補修工法検討路線数 ② 法面点検箇所数/法面点検箇所数	① 舗装補修工法検討路線数	
【抱える課題やニーズは】	道路施設の老朽化に伴う道路利用者への被害。		目標年度	平成27年度
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	安全な通行の確保。		目標値	3路線
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保。		実績値	3路線
			達成度	100.0%
			目標年度	平成27年度
			目標値	24箇所
			実績値	24箇所
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①民間委託により実施	平成25年度に予算補正(繰越明許)し、入札により民間業者に業務を委託し施設の点検を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町道の安全な通行を確保するため、道路施設の点検を実施することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	本事業を実施したことにより、修繕計画の基礎となる調査が実施できたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	修繕を実施するための基礎資料となる調査が実施できたことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	安全な通行を確保するための道路施設の点検調査が実施できたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
安全な通行の確保を図るためには、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
安全な通行の確保を図ることは必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止